

ウィズ&ポスト・コロナ時代におけるスタジアム・アリーナイベントの展望

○小松史郎(集客都市研究所) 岩崎博(S Cプランニング・オフィス)

キーワード コロナ スタジアム・アリーナ DX技術 リアルイベント デジタルイベント

【1】研究の背景と調査の目的

2020年初めに突然始まった新型コロナウイルス感染症の拡大は、オリンピックをはじめとするスポーツイベントやエンターテイメントイベントの延期や中止などの危機的状況をもたらした。この状況はイベント業界のみならず社会的にも深刻な影響を及ぼしているばかりではなく、大型イベントの存在意義そのものが問われる事態まで及んでいる。

これに対して大型イベントの開催の場であるスタジアム・アリーナにおいては、社会的要請を受けて三密を避けソーシャルディスタンスを確保するための様々な対応を講じてきたが、今なお厳しい経営状況が続いており、かつ将来に対する確かな展望が抱けない状況にある。

本研究は、最初にコロナ感染症の拡大期であるウィズ・コロナ期における最近のスポーツおよびエンタメ業界の最新状況を見た上で、ワクチンや治療薬等が普及し一定の落ち着きを見せるポスト・コロナ期においてスタジアム・アリーナイベントがどうなっていくのかを、今回のコロナ禍を機に目覚ましい発展を見せているDX技術を活用したデジタルイベントの動向も踏まえて展望するとともに、大型イベントの存在意義そのものを再確認することを目指すことを目的とする。

【結果および考察】

1. ウィズ・コロナ期におけるリアルイベントの動向

コロナの感染拡大が続いているウィズ・コロナ期においては、スポーツ業界やエンタメ業界での大型リアルイベントは中止や延期が続いている。政府が発表したイベント開催制限に応じて、各業界は独自のイベントの自粛や三密回避やソーシャルディスタンス確保等のための様々な感染対策を行ってきている。しかしながら野村総研の試算によれば2020年のライブエンターテイメントの損失は前年の市場規模の77%減と推計されている。この影響を受けて大型リアルイベントの開催の場であるスタジアム・アリーナ業界は危機的経営定状態に瀕している。

2. ウィズ・コロナ期におけるデジタルイベントの動向

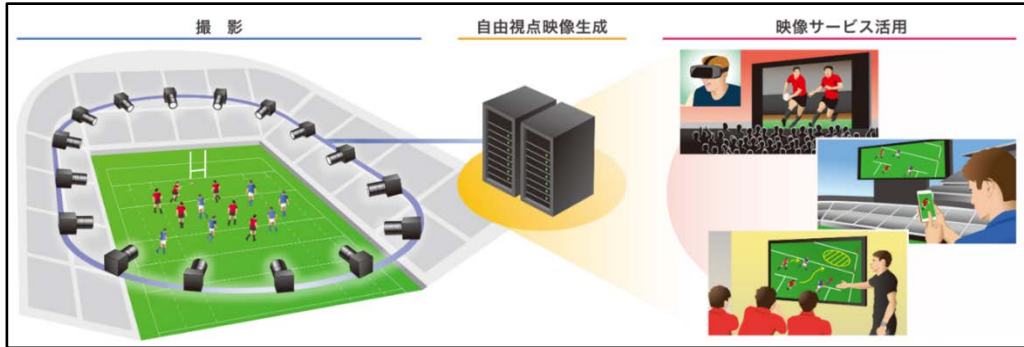
リアルイベントが低迷する中で、自宅でテレビやインターネットできるスポーツ観戦やライブコンサートの視聴ができる従来型デジタルイベント市場は急増している。ウィズ・コロナ期におけるこのような従来型のデジタルイベント特徴は、スポーツバーや居酒屋、カラオケで友人や仲間と盛り上がり観戦できない在宅型であることである。したがってスタジアムやアリーナで味わえる友人や仲間との一体感や臨場感や興奮や体験できないという欠点がある。

近年、このような従来のデジタルイベントの欠点を5Gの通信技術とVRやAR、ホログラムなどのDX(デジタル・トランスフォーメーション)技術で補完できるデジタルイベントの目覚ましい発展がある。本稿ではDX技術でスタジアムにいる時とほぼ同じ観戦体験が出来る観戦スタイルをDX型観戦スタイルと名付けことにする。この観戦スタイル事業は、まだ開発段階で今のところスポンサー料で視聴

者から料金を徴収する事業スキームにはなっていない。今回のコロナの感染拡大はこの事業の本格化する実現時期を早める効果はあったことは確かである。次の図はスタジアムに複数の自由視点カメラが設置され、客席にVR映像を受信できる固定式タブレットや大型画像が用意された場合にDX型観戦事業のイメージを描いたものである。

スタジアムにおけるDX型観戦事業のイメージ

出所：CANON



【結論】 ポスト・コロナ期におけるスタジアム・アリーナイベントの展望

ポスト・コロナ期におけるスタジアム・アリーナイベント次になると予想される。

①. ポスト・コロナ期においてもスタジアム・アリーナの意義は十分ある。

その理由は、スタジアム・アリーナで体感する友人や仲間との一体感、臨場感、興奮都の価値は普遍である。NRCの調査では観戦経験者の「コロナの不安があっても観戦にいきたい」人が32%いた。

②. ポスト・コロナ期においてスタジアム・アリーナは、復活してくるリアルイベントに新たに成長するデジタルイベントが加わるため共存共栄するという姿になる。

その理由は、今後成長するデジタルイベントの体験者がリアルイベントに価値に気づきリアルイベントに流れるためと、三密やソーシャルディスタンスを確保する新たなテクノロジーやノウハウが必ず開発されるためである。

これによって未来のスタジアム・アリーナイベントは持続的に発展する可能性はあるといえる。

■ウィズ&ポスト時代のスタジアム・アリーナイベントの展望

